

今日のみことば

□ 2月25日(日) 士師記 17章

ミカの盗みの出来事を機会に母親は偶像を作り、神の家に祭り、息子ミカを祭司とした。彼らに神はなく「めいめいが自分に正しいと見えることを行」っていました。

□ 2月26日(月) 士師記 18章

その頃イスラエルには王がいなかったので、ダン部族は勝手に相続地を移動し、平和に過ごしている民を襲撃しておのがものとする行為をなんとも思わなかった。

□ 2月27日(火) 士師記 19章

イスラエルに王がいなかった時代のことと言われるが、その霊的レベルの低かったことに驚く。それはソドムの不品行の匹敵するものであった。

□ 2月28日(水) 士師記 20章

この章にはベニヤミン族に対する全イスラエルのこらしめが記されている。この出来事は正義は最後には必ず勝つと言うことを教えると共に、私たちへの霊的戦いの教訓でもある。

□ 3月1日(木) 士師記 21章

イスラエルの民はこの戦争でベニヤミン族を絶滅する結果となったが、その回復のためにしたことは、まことに驚くべきことで、主が失われた民の悲惨さを心に止めさせられる。

□ 3月2日(金) ルツ記 1章

戦い、殺害、欲望、悲惨の士師時代でも美しい物語はあったそれがルツ記の一家族の物語である。ナオミ、ルツ、ボアズへの神の恵み深い摂理の物語です。

□ 3月1日(土) ルツ記 2章

帰国したナオミとルツは貧しさの中にあった。律法は収穫の落ち穂を貧しい者のために残して置くことを規定していた。ルツはボアズの所有地の落ち穂を拾っていた。

ろ ぼ No. 1856
2018年 2月25日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

マタイ 26:57

人々はイエスを捕らえると大祭司カイアフアのところへ連れて行った。そこには律法学者たちや長老たちが集まっていた。

私たちはイエスが口にされた言葉のひとつ一つを、しっかり聞きとらせていただけてきました。父なる神さまの権威の下に語られた言葉を通して、私たちは神さまが伝えたいであろうことを聞きとらせていただけてきましたが、イスラエルの民にはそうは聞こえませんでした。律法の行いによって自らを義としている人たちにとっては、イエスは律法破りの大罪人で早いうちに摘んでおかなければなりませんでした。イエスが何をされ、どのような扇動的な発言をされたか。祭司、律法学者たちにとっては、もっと違った問題がありました。グラスゴーのボナテと言う宗教家が、ある夜の夢で天の使いから彼の宗教上の熱心さを分析されたと言います。それはこうで

した。功名心が22%、宗教心が15%、利己心が14%、と言うような不純な分子ばかりが多くて、順良な部分は、ただ神に対する愛が4%、人に対する愛が3%、計7%に過ぎないのを見て、深く恥じ入り悔やんだという話を聞かされました。私には言葉がありませんでした。

イエスをなき者にしたいと奔走していた人々は、彼ら自身も悩んできたことでした。だからその中の一人ニコデモは、夜こっそりとイエスを訪ねて教えを乞ったのです。神さまが律法を起こされたのは、しっかり神さまの御心を生きるためでした。しかし私たちはそれを誤って受け取っていないか。生かすどこ

ろか殺す道具にしていなかと考えさせられています。まさしくイエスが安息日に病人をいやされたことを責めた祭司たちに言われた言葉「そして人々にこう言われた。『安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、殺すことか。』彼らは黙っていた」(マルコ3:4)が明らかにしてくれるとおりでありませんか。私たちは神さまがモーセを通して与えられた10の戒めを聞き誤っていませんか。出エジプトをした烏合の衆にも等しいイスラエルの民が生きるために与えられた戒めであって、彼らを束縛し殺すためのものではありませんでした。

イエスはその神さまの御心を伝えるために、権威を持って語っておいでになりました。しっかりそのイエスを見つめた人たちはイエスを信じました。しかし律法第一で歩んできた人たちには、イエスは異端者であり、排除すべき人物でした。その証明に彼らがとった行動はあまりにも浅ましいものでした。イエスは彼らの問いに、「イエスは言われた。『それは、あなたが言ったことです。しかし、わたしは言うておく。あなたたちはやがて、／人の子が全能の神の右に座り、／天の雲に乗って来るのを見る。』」(マタイ26:54)と答えられました。イエスのこの決定的な宣言は、祭司たちにイエスを死刑とする決定的な証拠とされました。こうしてイエスは救い主の道、十字架へのと歩み行かれました。イエスの言葉を通して、最後まで御心を貫き通されたイエスに、しっかりと聞かせていただくのです。心鈍き私たちをそれでも神さまは、愛しつづけていていて下さることを忘れさせていただけません。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
マルコ 12:35-44 何を見ているのか

都入りされたイエスが何を語られ行動されたかは、私はしっかりと心に留めさせていただかねばならないことだと思っています。人々もまたイエスが何をされるか関心がありました。イエスは律法学者を非難されました。そこにはイエスが私たちに最も大事なものが何であるかを伝えたいイエスの思いがあったと聞かせていただきます。律法学者の振る舞いを非難されたイエスの思いに、律法に忠実であると言うことが示すものがありました。

貧しいやもめの献金について語られたイエスの言葉の中にもそれがあります。やもめの献金はレプトン銀貨2枚でした。それは「二羽のすずめ」の価値の4分の1でしかなかった。それをイエスは「この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中でだれよりもたくさん入れた」と言われました。このイエスの言葉に何を聞きますか。神の国とはこのような人の国です。私はふさわしいものでしょうか。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

マタイ27:3-8

ユダの裏切り